

旧藏内氏庭園が国指定名勝に

文化審議会が答申

国の文化審議会は十一月二十一日に旧藏内氏庭園を、国の名勝に指定するよう文部科学大臣に答申しました。今回新たに全国で史跡名勝天然記念物に指定答申されたのは二十四件で、日本全国の総合計は三、一三八件、そのうち庭園は二一七件になります。築上町では「本庄のクス」「船迫窯跡」「求菩提山」に次いで4件目になります。

旧藏内氏庭園として指定されるのは築上町大字上深野三九六番地、三九七番地、四〇一番地三の宅地と敷地内の水路で、対象面積は七、二〇〇・七二㎡です。名称は「旧藏内氏庭園」となっていますが、庭園だけでなく敷地内の住宅建物などすべてが含まれています。

今回の指定において評価された点は、まず文化的価値としては、応接間、茶室、大広間など多彩な視点をもちつ大きな池庭を中心に、表庭中庭、裏庭など多様な意匠の庭がそれぞれ独自の空間を成して、それは藏内氏の煎茶趣味や文人趣味など山水への美意識に大きく影響されて、高い芸術性が認められる点です。

また今回の指定範囲には入っていませんが、隣接する貴船神社と参道や石橋、園池への灌漑用水路、そして西の山裾の藏内一族の銅像広場など、藏内氏の生業、生活、信仰の空間全体が、その繁栄の証として大正時代に大規模整備され、造形的にも近代的な意匠や材料で統一され、相互に関連しているところは重要であ



るとされました。また周辺の田園風景と東西の城井谷の山並みなど、今も当時の景観が保全されている点是最も高く評価され、現在の保存管理状態や一般公開の手法も高く評価されました。そして今後さらなる周辺調査と景観保全の高い意識が求められ、国指定名勝として保存管理するとともに、築上町の誇れる財産として皆さんに親しんでいただけるよう公開していかねばなりません。

国の名勝指定を機会にぜひ旧藏内邸にお越しください。特別展「きんからの世界」も開催しています。

(生涯学習課)

旧藏内邸特別展

きんからの世界

百年の時を超え、よみがえる

会期：十二月二十三日(火)まで

休館日：毎週火曜・水曜日

時間：九時半～四時半

入館料：三百円(小中学生百円)

旧藏内邸の貴重な壁紙「金唐革紙」の復元を記念して、全国の貴重な金唐革紙の額絵や屏風などミステリアスな輝きを放つ「きんからの」優品三十点に加え、昨年発見された金唐革紙の扉など展示しています。貴重な機会ですので、ぜひお見逃しなく。



▲版木とともに復元された旧藏内邸の金唐革紙